科目名	単位数	時間数
基礎看護学実習Ⅰ	１単位	４５時間

目的：１．療養の場におけるコミュニケーションの意義・目的・方法について理解を深める。
２．病院で生活しているその人の生活と看護の実際を知る。
３．基本的な個人情報の取り扱い及びスタンダードプリコーションを実践する。

実習目標	学習内容	備考
１．患者と関わることができる。	１）コミュニケーションに必要な能力「聴く」「話す」「理解する」を意識して対話していること知る。 ⑴　看護師の行うコミュニケーションの場面を通して「傾聴の技術」「情報収集の技術」「説明の技術」が実践されていることに気づき、その意図を考察する。 ２）対象を尊重しながらコミュニケーションをとる。 ⑴　対象に関心を寄せて関わる。 ⑵　接近的行動を実践する。 ⑶　意図的に傾聴の技術を実践する。 ⑷　コミュニケーションを通して対象と信頼関係を築く。 ⑸　対象の想いやニーズに気づくことが出来る。 ３）対象の反応から自己のコミュニケーションについて振り返る。 ⑴　看護医療におけるコミュニケーションについて考察する。 ⑵　対象との対話を通して、実践的なコミュニケーション技術の基本が身についているか考察する。 カンファレス テーマ「療養の場における自己のコミュニケーションの振り返り」	行動報告書

４．基本的な個人情報の取り扱い及びスタンダードプリコーションを実践する。 ５．実習を通し看護学生としての態度を養う。	１） 記録物への倫理的配慮等守秘義務を厳守できる。 ・ カルテや病院の記録、実習記録の取り扱い ・ 得た患者情報の不用意な取り扱い ２） 確実にスタンダードプリコーションが実践できる。 ・ 手指衛生の確実な実施 ・ 個人防護具の活用 ・ 感染性廃棄物の取り扱い １） 意欲的に取り組む。 ⑴ 目的意識を持って実習に参加する。 ⑵ 振り返りの時間に自身の体験を発信し、話し合うことからその意味・目的・工夫を考え、学びを深める。 ⑶ ⑵を元に翌日の目標を明らかにし、行動報告書を作成する。 ⑷ 関心をもって対象に関わる。 ⑸ 実習中に気付いた疑問や知識不足について追加学習する。 ２） 協調性のある行動をとる。 ⑴ 指導者（スタッフ、教員）に報告・相談ができ、指導者の意見に耳を傾ける。 ⑵ グループメンバーに協力しながら、個々の役割を果たす。 ３） 礼節をもった対応ができる。 ⑴ 身だしなみを整えて相手を不快にしない。 ⑵ 病院内で関わる対象、スタッフその他の人に適切な挨拶をする。 ⑶ その場、状況に合わせて適切な言葉遣いをする。 ４） 責任のある行動をとる。 ⑴ 相手の権利や尊厳を守る。 ⑵ 安易に休まず、約束を守る。 ⑶ 自己の関わりや援助について振り返りをしている。	

科目名	単位数	時間数
基礎看護学実習Ⅱ	２単位	９０時間
目的：１．コミュニケーションや観察を通して、情報収集ができる。 ２．対象に応じた療養生活を整えるための日常生活援助が安全に提供できる。		

実習目標	学習内容	備考
１．コミュニケーションや観察を通して、情報収集ができる。	１）対象とコミュニケーションを実践する。 ⑴　良好な人間関係を築くうえで必要な態度を常に意識して行動する。 ①　対象に対する深い関心を持つ。 ②　相手をわかろうとする態度をとる。 ⑵　コミュニケーションに必要な能力「聴く」「話す」「理解する」を意識して技法を使って対話する。 ⑶　対象との関わりを振り返ることで意図的で良好なコミュニケーションを実践する。 ２）ミスコミュニケーションを避け、正しい情報を得る。 ⑴　正しい表現、適切な伝え方を選択する。 ⑵　相互理解のための確認をする。 ⑶　得られた結果を対象との関わりに活かす。 ３）ヘルスアセスメントの視点でアセスメントとコミュニケーションを実践する。 ⑴ 定量的、定性的観察の実施。 ⑵ 時間経過による変化をとらえる。 ⑶ 観察したことをもとに対象の反応を観察する。 ４）以下の情報を収集する。 ⑴ 現在対象に行われている看護・治療 ⑵ 病棟・対象の日課・週課 ⑶ 現病歴（入院から現在に至るまでの健康状態や生活状況） ⑷ 入院前の既往歴 ⑸ 呼吸器、循環器系、筋骨格系、運動機能、感覚器、脳血管系 ⑹ 日常生活に必要な基礎能力、ADL、歩行、姿勢保持 ⑺ 通常のレジャー活動	行動計画 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｼｰﾄ 様式 ｸﾗｽﾀｰ４ ﾌﾛｰｼｰﾄ ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｼｰﾄ 様式 ｸﾗｽﾀｰ４
２．対象に行われている援助の根拠がわかり実践できる。	１）収集した情報を整理し対象の療養生活を把握する。 ２）収集した情報から、患者の療養生活に必要な援助の根拠を考察する。 ⑴ 対象に行われている看護・治療の実際 ⑵ バイタルサイン測定 ３）対象の生活リズムや日課にあわせて援助を立案・実施する。 ⑴　観察の視点・方法・留意点を明確にする。 ⑵　申し送りや得られた情報をもとに、指導や助言を得ながら追加修正する。 ⑶　原理原則や安全・安楽・自立の側面をふまえて援助を実施する。 ⑷　援助場面から対象の反応や結果の事実を捉える。 ⑸　実施した援助についてリフレクションし、援助の追加修正を日々行う。	行動計画 ﾌﾛｰｼｰﾄ ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｼｰﾄ 様式 ｸﾗｽﾀｰ４ 援助計画

	4）対象に適した療養環境を整えるための看護実践について振り返る。 最終カンファレンス テーマ「対象に適した療養生活を整えるための看護実践の振り返り（コミュニケーション含む）」	最終CF資料 レポート
3．実習を通し看護学生としての態度を養う。	1）意欲的に取り組む。 (1) 目的意識をもち、日々の目標を明らかにして実習に臨む。 (2) 関心をもって対象と関わり、疑問や不足に対して主体的に学びを深める。 2）協調性がある。 (1) 指導者やスタッフ、教員の意見に耳を傾ける。 (2) グループメンバーと協力する。 3）礼節をもった対応をする。 (1) 身だしなみ、挨拶、他者を尊重した言動 4）責任ある行動をとる。 (1) 相手の権利や尊厳を遵守する。 (2) 実習に関する約束を遵守する。 (3) 自己の関わりや援助に対して振り返り、自分が捉えた事実について確認する。 (4) 適宜報告・相談する。	

科　目　名	単　位　数	時　間　数
地域実習	２単位	９０時間

目的：地域で生活する人々に対する保健・医療・福祉活動の実際を通して
１．地域で生活している人々の健康課題と生活への影響に気づく。
２．地域で暮らし続けるための支援の実際を知る。
３．実際の活動を手がかりに当地域の特徴について考えることができる。

実習目標	実　習　内　容	備　考
1. マナーを守り、地域で生活する人々とコミュニケーションを成立させることができる。	1）地域住民と信頼関係を築くために、看護学生として必要な以下のマナーを実践する。 ⑴ 礼節をわきまえた行動 ⑵ 個人を尊重した関り 2）実習の場や、生活者特徴を捉えコミュニケーションを図る。 ⑴ 住民の状態に合わせコミュニケーションをとる。 ①発達段階に合わせたコミュニケーション ②健康レベルに合わせたコミュニケーション ⑵ 状況に合わせコミュニケーションをとる。 ⑶ 対象を理解するためのコミュニケーションの実践 ① 必要な情報を引き出す。 ② 対象の心配事や感情に焦点を当てる。 ③ コミュニケーション技術を活用する。	行動報告書
2．地域住民の生活者の特徴と健康的な暮らしを維持していくための支援を理解する。	1）各ライフステージの特徴と人々の暮らしを知る。 ⑴ 対象のライフステージの特徴(身体的・心理的・社会的) ⑵ 日常生活・日課 ⑶ 生活習慣・生活背景 ⑷ 生活環境・地域環境（自然環境・交通・経済・文化・医療） ⑸ 価値・信念（社会的役割・家族内の役割・生活の中で楽しみ） 2）健康的な暮らしを維持していくための支援の実際を把握し支援の必要性を理解する。 ⑴ 地域で暮らし続けていくための支援の実際と専門職種の役割 ⑵ 生活者（個人・集団）の健康問題と健康課題に対する対応 ⑶ 生活者（個人・集団）の特徴 ① 健康センター・保健センターにおける支援の実際 地域診断（地区診断）/乳幼児健診/家庭訪問/予防接種/がん検診/健康相談/健康診査/保健指導/介護事業/多職種連携 ② 小中学校における支援の実際 学区の特性/児童・生徒の特徴/保健教育・保健管理 安全教育・安全管理/学校給食/地域住民との連携/他職種連携（学校医・学校歯科医・学校薬剤師） ③ 診療所における支援の実際 受診者の特徴/健康診断/健康相談/病院と診療所の連携/認知症予防/地域での活動（学校医・在宅医療・ACP）	行動報告書

３．地域で暮らし続けるために必要な支援の実際を理解する。	１）各施設での実習体験を通して、気がかりな対象の健康問題・課題と対応について、関係する施策をもとに情報を整理し、全体像を可視化する。 ⑴ 対象の健康問題・課題に対する対応 ⑵ 対象の健康問題・課題に対する家族の対応 ⑶ 対象の健康問題・課題に対する地域（市町村・県・国）の対応（支援）	行動報告書 支援の全体像
４．実習を通して看護学生としての態度を養う。	⑴ 意欲的な実習姿勢 ① 目的意識をもって実習に臨む。 ② 健康管理に留意し適切な対応をとることができる。 ③ 実習にふさわしい身だしなみ、訪問時のマナーを守る。 ④ 疑問や知識の不足について追加学習をする。 ⑵ 協調性のある実習姿勢 ①施設ごとの約束を守り行動する。 ②相手の意見に耳を傾け、自分の考えを相手に伝える。 ③スタッフの方々・教員・グループメンバーの状況を考え行動する。 ⑶ 責任ある実習姿勢 ① 相手の権利を守る。 （情報・記録の取り扱い・感染予防） ② 実習の規則や各施設の規則を守る。 ③ 適切な報告・連絡・相談ができる。	行動報告書

科目名	単位数	時間数
在宅看護論実習	２単位	９０時間
目的：保健・医療・福祉制度を理解し在宅で生活しながら支援を必要とする人とその家族に対する基礎的知識・技術・態度を習得する。		

実習目標	学習内容	備考
１．対象と効果的なコミュニケーションを実践する。	１）対象と効果的なコミュニケーションをとる。 (1)対象の健康状態に合わせ、コミュニケション技術を活用し、対象の心配事や不安に焦点をあてコミュニケーションを実践する。 (2)対象と保健・医療・福祉チームメンバーの効果的なコミュニケーションの意図を理解する。 アドボゲイト/エンパワメント/セルフエフカシー/パートナーシップストレングス ２）生活を支えるための多職種連携におけるコミュニケーションの意義や方法を理解する。	行動報告書
２．地域包括ケアシステムの概要を理解する。	１）暮らしの基盤となる地域を理解する。 人口動態/自然/地域環境/交通/商業/医療・保健・福祉 ２）地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センターの役割と責任を理解する。 （１）下記の業務の支援の必要性 総合相談支援・権利擁護/包括的・継続的ケアマネジメント支援/介護予防ケアマネジメント/地域ケア会議開催の推進 （２）地域包括ケアシステムにおける地域住民と各専門職の連携 ３）地域住民への支援の目的をふまえ、地域の活動に参加する。	行動報告書
３．支援の実際を通して在宅看護の特徴を理解する。	１）在宅で療養生活を送る対象の生活を理解する。	行動報告書

３．支援の実際を通して在宅看護の特徴を理解する。	(1)療養者の健康問題と生活への影響を明らかにすることができる。 ①主疾患による症状を明らかにする。 ②治療内容を明らかにする。 ③今後起こりうる合併症を予測する。 ④健康問題から日常生活を困難にしている事柄が説明できる。 ２)健康問題に対する看護ケアの必要性を理解する。 ３）在宅療養の場で起こりうる事故の予防と対応について理解する。 ①医療上のリスクについて ②療養環境上のリスクについて ③家族関係上のリスクについて ４）対象の状態をふまえ看護援助が実践できる。 ①バイタルサイン測定の実践 ②援助の目的をふまえ看護師が行うケアに参加 ５）対象の在宅生活を維持している支援について可視化する。 （１）以下のアセスメントの視点ごとに情報収集し整理する。 健康問題の全体像／家族の対応能力 家族の対応状況／家族の適応状況 ６)「地域での暮らしを支える看護」を理解する。	行動報告書

科　目　名	単　位　数	時　間　数
成人・老年看護学実習Ⅰ	２単位	90 時間
目的：１．看護実践におけるコミュニケーションの意義・目的・方法について理解を深める。 ２．日々の看護実践をもとに看護過程を用いて振り返り、必要とされている看護を明確にする。		

実習目標	実　習　内　容	備　考
１．コミュニケーション技術を用いて、成人・老年期にある対象や医療チームメンバーと円滑な関係を築くことができる。	１）成人期または老年期にある対象と円滑なコミュニケーションをとる。 ⑴　コミュニケーション技術を使って対話する。 ⑵　人生の先輩として尊重した態度で接し、良い関係性を構築する。 ⑶　対象の心配事や感情に焦点をあてる。 ２）医療チームメンバーとコミュニケーションをとる。 ⑴　相手のメッセージを正しく受け取る。 ⑵　自己の考えを明確にし、相手に伝える。 ⑶　自己と相手、双方を尊重した自己表現をする。	レポートⒶ
２．病院で療養している対象の生活を捉え、必要な看護を導き実践できる。	１）実際に行われている治療や援助を把握する。 ⑴　障害された部位・治療の実際 障害された臓器の働き／対象の現在の状態／治療の目的／治療が選択された理由／薬物治療／食事療法／理学療法 ⑵　⑴の状況が生活に与えている影響 ⑶　生活を整えるための援助の実際 食事・排泄・活動・整容・更衣・入浴など ２）１）で得られた情報を元に、看護の方向性や具体策を明らかにする。 ⑴　対象の情報や療養の経過を要約 ⑵　介入したい事柄、患者の目標、具体策を明確にする。 ⑶　自己の看護の振り返り ２）対象の生活リズム・日課に合わせて行動計画を立案・実施する。 ⑴　対象に実施している生活援助技術・バイタルサイン測定についての援助の必要性を明確にする。 ⑵　観察の視点・方法・留意点を日々明確にする。 ⑶　実施は原理・原則を踏まえ、対象の反応や結果の事実を把握する。 ⑷　安全・安楽・自立の側面で日々振り返りながら実施する。 ⑸　申し送りや日々得られた情報を、指導・助言を得ながら自己の看護活動のリフレクションの視点で追加・修正を行う。 ３）コミュニケーションと観察から、以下の視点で対象の療養生活の情報を得る。	事前学習 学習ノート 行動計画Ａ 行動計画Ｂ フローシート 様式 看護計画 様式

	・　ゴードンの機能的健康パターン 「健康知覚／健康管理」「栄養／代謝」「排泄」「活動／運動」	
３．看護過程の方法を活用し、その人の療養生活と看護について明確にできる。	１）見学または実施した看護活動を、一定の書式に整理することで、健康障害のある対象を生活者として理解し、必要な看護を明確にする。 ⑴　得られた情報について知識を活用して整理し、各クラスターのアセスメントの視点に基づいて説明をする。 ⑵　各クラスターにおける看護の方向性を導き出す。	様式
４．実習を通し看護学生としての態度を養う。	１）意欲的に取り組める。 ⑴　目的意識を持って実習をする。 ⑵　毎日の学習目標を明らかにし実習に臨める。 ⑶　目的意識をもってカンファレンスに臨み、学びを深める。 ⑷　関心をもって患者に関わる。 ⑸　実習中に気付いた疑問や知識不足について追加学習する。 ２）協調性がある。 ⑴　指導者（スタッフ、教員）に報告・相談ができ、指導者の意見に耳を傾ける。 ⑵　グループメンバーに対して協力している。 ３）礼節をもった対応をする。 ⑴　身だしなみ・挨拶・言動・相手を思いやる気持ち ４）責任のある行動がとれる。 ⑴　相手の権利や尊厳を守る。 ⑵　安易に休まず、約束を守る。 ⑶　自己の関わりや援助に対し振り返りをしている。	

科目名	単位数	時間数
成人・老年看護学実習Ⅱ（急性期・回復期）	２単位	９０時間
目的：成人または老年期にある対象を理解し、周手術期・回復期の健康レベルに応じた看護を実践するための、基礎的知識・技術・態度を習得する。		

実習目標	学習内容	備考
１．様々な発達段階にある周手術期の対象を理解する。	１）対象の疾患について理解する。 ⑴　疾病発症の原因・誘因 ⑵　出現する症状のメカニズム・なりゆき ⑶　検査・治療などの影響 ⑷　起こり得る合併症・二次的障害 ２）発達段階が成人・老年期にある対象を理解する。 ⑴　成人・老年期の身体・心理・社会的機能 ⑵　発達段階、家族・社会の役割、入院前の生活 ⑶　生活習慣、環境因子、健康問題、健康観 ⑷　加齢変化、認知機能、残存機能 ⑸　家族介護力、社会資源 ３）情報収集する。 ⑴　記録・医療スタッフ・対象とのコミュニケーション、看護師とともに看護活動に参加し援助を通して、情報収集する。 ⑵　知識に基づいて事前学習から導き出された必要な情報を意図的に収集する。 ⑶　対象の状況から関連した情報収集をする。 ４）１）から３）で得られた情報をもとに、看護の方向性や具体策を明らかにする。 ⑴　対象の情報や療養の経過を要約、介入したい事柄、患者の目標、具体策	学習ノート 事前学習 行動計画Ｂ フローシート 検査項目一覧 様式 中間サマリー 看護計画
２．看護実践場面を通して、効果的なコミュニケーションを実践する。	１）対象とコミュニケーションをとる。 ⑴　コミュニケーション技術を使って対話する。 ⑵　対象の心配事や感情に焦点を当てる。 ⑶　インフォームドコンセントを実施する。 ２）医療チームメンバーとコミュニケーションをとる。 ⑴　自己の考えを明確にし、相手に伝える。 ⑵　適宜、報告や相談をする。 ⑶　相手のメッセージを正しく受け取る。 ⑷　自己と相手の双方を尊重した自己を表現する。	行動計画Ｂ
３．周手術期にある対象の健康レベルに応じた看護を実践する。	１）その日の目標に基づいた行動計画を作成し、実践する。 ⑴　対象を理解するために、何を明らかにしたいのか、なぜこの援助が必要なのかを明確にする。 ⑵　方法・観察・留意点が明確で、根拠に基づいた計画を立てる。	行動計画Ｂ フローシート 看護計画

	(3)　対象の状態や申し送り内容から、計画の追加修正を行う。 (4)　対象の反応や結果の事実を捉える。 (5)　(4)で観察したことを、適切な時間に知識を使い報告する。 (6)　実施した援助を評価する。 (7)　評価や振り返りを活かし、翌日の援助の必要性や計画に反映する。 2）健康レベルと発達段階を考慮して、看護を実践する。 (1)　急性期に応じた援助を実践する。 ・　周手術期看護 ・　手術前の対象への看護 ・　手術後の対象への看護 (2)　回復期に応じた援助を実践する。 ・　手術後の対象への看護 ・　退院に向け、術後経過をふまえた患者指導 (3)　原理原則、計画に基づいて実践する。 (4)　苦痛を与えず、目的達成につながる手技で実践する。 (5)　実施時の対象の反応や異変に気づき、対応につながる行動をとる。 (6)　自己の看護活動を振り返る。 (7)　1）2）での学びを通して、以下について考察する。 「発達段階における対象の特徴を踏まえた学び」 3）手術室における看護の実際を知る。 ・　手術中の看護 ・　手術室における看護の展開 ・　手術室の環境管理	行動計画B 看護計画 レポート 手術室用行動計画
4．実習を通し看護学生としての態度を養う。	1）意欲的に学習する。 2）協調性のある行動をとる。 3）礼節をもった対応をする。 4）責任ある行動をする。	

科目名	単位数	時間数
成人・老年看護学実習Ⅲ（慢性期・終末期）	２単位	９０時間
目的：成人期または老年期にある対象を理解し、慢性期・終末期の健康レベルに応じた看護を実践するための、基礎的知識・技術・態度を習得する。		

実習目標	学習内容	備考
１．様々な発達段階にある慢性期・終末期の対象を理解する。	１）対象の疾患について理解する。 ⑴　疾病発症の原因・誘因 ⑵　出現する症状のメカニズム・なりゆき ⑶　検査・治療などの影響 ⑷　起こり得る合併症・二次的障害 ⑸　全人的苦痛 ２）発達段階が成人・老年期にある対象を理解する。 ⑴　成人・老年期の身体・心理・社会的機能 ⑵　発達課題、家族・社会の役割、入院前の生活 ⑶　生活習慣、環境因子、健康問題 ⑷　健康観、対象の思い ⑸　加齢変化、認知機能、残存機能 ⑹　家族介護力、社会資源 ３）情報収集をする。 ⑴　記録・医療スタッフ・対処とのコミュニケーション、看護師と共に看護活動に参加し援助を通して、情報収集する。 ⑵　知識に基づいて事前学習から導き出された必要な情報を意図的に収集する。 ４）１）～３）で得られた情報をもとに看護の方向性や具体策を明らかにする ⑴　対象の情報や療養の経過を要約、介入したい事柄、患者の具体策	学習ノート 事前学習 行動計画Ａ 行動計画Ｂ フローシート 検査項目一覧 様式 様式 看護計画
２．看護実践場面を通して効果的なコミュニケーションを実践する。	１）対象とコミュニケーションをとる。 ⑴　コミュニケーション技術を使って対話する。 ⑵　必要な情報を得る。 ⑶　対象の心配事や感情に焦点を当てる。 ⑷　インフォームドコンセントを実施する。 ２）医療チームメンバーとコミュニケーションをとる。 ⑴　自己の考えを明確にし、相手に伝える。 ⑵　適宜、報告や相談をする。 ⑶　相手のメッセージを正しく受け取る。 ⑷　自己と相手の双方を尊重した自己表現をする。	行動計画Ａ 行動計画Ｂ
３．慢性期・終末期にある対象	１）その日の目標に基づいた行動計画を作成し、実践する。 ⑴　対象を理解するために、何を明らかにしたいのか、な	行動計画Ａ 行動計画Ｂ

の健康レベルに応じた看護を実践する	ぜこの援助が必要なのかを明確にする。 (2) 方法・観察・留意点が明確で、根拠に基づいた計画を立てる。 (3) 対象の状態や申し送り内容から、計画の追加修正を行う。 (4) 対象の反応や結果の事実を捉える。 (5) (4)で観察したことを、適切な時間に知識を使い報告する。 (6) 実施した援助を評価する。 (7) 評価や振り返りを活かし、翌日の援助の必要性や計画に反映する。 2）健康レベルと発達段階を考慮して、看護を実践する。 (1) 慢性期に応じた援助を実施する。 (2) 終末期に応じた援助を実施する。 (3) 原理原則、計画に基づいて実践する。 (4) 苦痛を与えず、目的達成に繋がる手技で実践する。 (5) 実施時の対処の反応や異変に気付き、対応に繋がる行動を取る。 (6) 自己の看護活動を振り返る。 (7) 1）2）での学びを通して、以下について考察する。 「発達段階における対象の特徴を踏まえた学び」	フローシート 看護計画 行動計画B 看護計画 レポート
4．実習を通して看護学生としての態度を養う。	1）意欲的に学習する。 2）協調性のある行動をとる。 3）礼節をもった対応をする。 4）責任ある行動をとる。	

科　目　名	単　位　数	時間数
成人・老年看護学実習Ⅳ	2 単位	90 時間
目的：１．成人期または老年期にある人の療養生活を理解し、その人の個別性や支援システムおよび、健康障害をもちながら生活する人の看護を学ぶ。 ２．退院支援システムにおける看護師の役割を学ぶ。		

実習目標	学習内容	備考
１．様々な発達段階にある疾患を抱えた対象や家族などを理解する。	１）対象の疾患について理解する。 ⑹　疾病発症の原因・誘因 ⑺　出現する症状のメカニズム・なりゆき ⑻　検査・治療などの影響 ⑼　起こり得る合併症・二次的障害 ⑽ 現在の健康状態や予想される今後の生活の問題点、 ⑾ 対象や家族の自己決定と介護力、自宅の療養環境、社会資源の活用など ⑿ 退院指導の必要性 ２）発達段階が成人期・老年期にある対象を理解する。 ⑴　成人、老年期の身体・心理・社会的機能 ⑵　発達課題、家族・社会の役割、入院前の生活、生活習慣 ⑶　加齢変化、認知機能、残存機能 ３）情報収集をする。 ⑶　記録・医療スタッフ・対象とのコミュニケーション、看護師と共に看護活動に参加し援助を通して、情報収集する。 ⑷　知識に基づいて事前学習から導き出された必要な情報を意図的に収集する。 ４）１）～３）で得られた情報をもとに、看護の方向性や具体策を明らかにする。 ⑴　対象の情報や療養の経過を要約、介入したい事柄、患者の目標、具体策	学習ノート 事前学習 行動計画Ａ 行動計画Ｂ フローシート 検査項目一覧 様式 様式 看護計画
２．看護実践場面を通して効果的なコミュニケーションを実践する。	１）対象とコミュニケーションをとる。 ⑴　コミュニケーション技術を使って対話する。 ⑵　必要な情報を得る。 ⑶　対象の心配事や感情に焦点を当てる。 ⑷　インフォームドコンセントを実施する。 ２）医療チームメンバーとコミュニケーションをとる。 ⑴　自己の考えを明確にし、相手に伝える。 ⑵　適宜、報告や相談をする。 ⑶　相手のメッセージを正しく受け取る。 ⑷　自己と相手の双方を尊重した自己表現をする。	行動計画Ａ 行動計画Ｂ
３．対象の健康レベルに応じた看護を実践す	１）その日の目標に基づいた行動計画を作成し、実践する。 ⑴　対象を理解するために、何を明らかにしたいのか、なぜこの援助が必要なのかを明確にする。	行動計画Ａ 行動計画Ｂ フローシート

る。	⑵　方法・観察・留意点が明確で、根拠に基づいた計画を立てる。 ⑶　対象の状態や申し送り内容から、計画の追加修正を行う。 ⑷　対象の反応や結果の事実を捉える。 ⑸　⑷で観察したことを、適切な時間に知識を使い報告する。 ⑹　実施した援助を評価する。 ⑺　評価や振り返りを活かし、翌日の援助の必要性や計画に反映する。	看護計画
	2）対象の健康レベルに応じた看護を実践する。 ⑴　残存機能に応じた日常生活援助技術の実践する。 ⑵　二次障害の予防をする。 ⑶　対象および家族への心理面への援助をする。 ⑷　対象にあわせた患者指導をする。 ⑸　自己の看護活動を振り返る。	行動計画B 看護計画
4．療養生活を支える社会保障制度の活用と看護の役割について理解する。	1）患者支援センターにおいて、保健・医療・福祉の連携の実際や退院支援（調整）に向けた関わりを見学する。 2）1）から退院支援に関わる各専門職と看護師の役割を知る。 ⑴　専門職の役割、活動の場、活動内容、多職種との協働 3）1）2）の見学を通して、以下について考察する。 「退院支援における多職種連携と看護師の役割」	レポート
5．実習を通して看護学生としての態度を養う。	1）意欲的に学習する。 2）協調性のある行動がとれる。 3）礼節をもった行動がとれる。 4）責任ある行動がとれる。	

科　目　名	単　位　数	時　間　数
小　児　看　護　学　実　習　Ⅰ	１単位	３０時間
目　的：乳幼児期の成長・発達を理解し、対象の年齢や場に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。		

実習目標	学　習　内　容	備　考
１．乳幼児期にある対象の特徴を理解する。	1）乳児期・幼児期にある対象について成長・発達の実際を知る。 （1）施設の概要・特徴について ・施設の法的根拠、入所人数、日課、行事 ・構造上の特徴（教室、トイレ、遊具等） ・安全管理 ・感染防止対策 （2）成長・発達 ・形態的成長 ・運動機能 ・知的、心理的発達 ・社会性の発達 （3）日常生活習慣の自立状況 ・食事 ・排泄 ・清潔 ・衣服の着脱 ・睡眠 （4）遊びの内容と発達 ・遊びの種類 ・遊びの道具 ・友人、保育士との関係	事前の臨地ガイダンス有り 行動報告書 情報収集用紙
	2）対象クラスの児について情報収集を行い、成長・発達についてアセスメントする。（１日１事例）	情報収集用紙
２．対象に合わせたコミュニケーション技術を提供する。	1）対象の年齢や発達段階に応じた言動、話題を選択し、コミュニケーション技術を活用する。	行動報告書
	2）実践した内容を対象の成長発達に応じた関りについて振り返る。	行動報告書
３．対象の健康レベルに応じた看護の必要性を理解する。	1）体験・見学を通して小児看護の役割を以下の視点で考察する。 （1）　健康診断や健康管理の実際 （2）　成長発達を支える関り （3）　家族の支援	レポート「学びのまとめ」
４．実習を通して看護学生としての態度を養う。	1）意欲的に学習をする。 2）協調性のある行動をとる。 3）看護学生として礼節を持った対応をする。 4）責任ある行動をとる。	

科　目　名	単　位　数	時　間　数
小　児　看　護　学　実　習　Ⅱ	１単位	３０時間
目　的：小児の成長・発達を理解し、対象の年齢や状態に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。		

実習目標	学　習　内　容	備　考
１．小児期にある対象の健康レベルに応じた看護の必要性と方法を理解する。	１）対象の安全を守り、対象に行われている援助を体験し、看護の実際を知る。 （１）施設の概要・特徴について ・施設の法的根拠、入所人数、日課、行事 ・構造上の特徴（教室、トイレ、遊具等） ・安全管理 ・感染防止対策 （２）指導の下に実施できる援助 ・ＶＳ測定 ・診察の介助 ・身体測定 ・予防接種および処置時の固定法 ・吸入の介助 ・日常生活の自立に向けた援助 （３）見学する援助 ・採血 ・持続的静脈内注射 ・保健指導 ・隔離 （４）合同カンファレンスに積極的に参加し、学びを共有する。	行動報告書
	２）来院した患児の情報収集を行い、小児の状態をアセスメントし、必要な看護を考察する。	行動報告書
	３）体験・見学を通して、小児看護の役割を以下の視点で考察する。 （１）　診察や検査処置の援助の実際 （２）　成長発達を支える関り （３）　家族への支援	レポート
２．対象の特徴を理解し、対象に合わせたコミュニケーション技術を提供する。	１）対象の年齢や発達段階に応じた言動、話題を選択し、コミュニケーション技術を活用する。 ・プレパレーション ・ディストラクション	行動報告書
	２）実践した内容を対象の成長発達、健康レベルに応じた関りについて振り返る。	行動報告書
３．実習を通して看護学生としての態度を養う。	１）意欲的に学習をする。 ２）協調性のある行動をとる。 ３）責任ある行動をとる。 ４）看護学生として礼節を持った対応をする。	

科目名	単位数	時間数
母性看護学実習	2 単位	60 時間
目的：母性看護の特性を理解し、対象に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。		

実習目標	学習内容	備考
1. 妊娠期にある対象への理解を深め、その対象に合わせた基本的援助の必要性と方法を理解する。	《外来：小川産婦人科・小児科》 1）対象の身体的・心理的・社会的特徴と、生理的変化を知るための情報収集をする。 (1) 妊婦・胎児の身体的変化を説明する。 (2) 妊婦の出産に向けての期待や不安を説明する。 (3) 小児科での１か月健診の見学を通し乳児・新生児の正常な成長・発達を説明する。 2）妊婦ジャケット着用を通して、妊婦の不安や不快に気づき、必要な保健指導を理解する。 3）対象に行われている看護を見学・体験する。 診察介助/超音波検査/諸計測(腹囲・子宮底)/腹部触診(レオポルド)/NST 装着/保健指導(集団・個別)/1 ヵ月健診 4）上記の情報や体験を通して以下を明らかにする。 (1) 妊娠経過をアセスメントする。 (2) 小児科での１か月健診の見学を通して継続看護の必要性を説明する。 テーマ「地域関連機関との連携・継続看護について」…Ⓒ (3) 事例を用いて、対象に必要となる保健指導を計画し学生同士で演習を行う。 テーマ「妊娠期にある人の看護」…Ⓐ	行動報告書 妊娠期経過記録 ※妊婦への技術は手順書を作成 行動報告書 妊娠期経過記録 レポートⒸ レポートⒶ
2. 分娩期・産褥期・新生児期にある対象理解と、その対象に行われている看護の必要性と方法を理解する。	《病棟：清水病院》 【分娩期】 1）対象の身体的・心理的・社会的特徴と、生理的変化を知るための情報収集をし、知識を使い対象の状態を説明する。 (1) 分娩各期の経過と、分娩期における産婦の身体的変化・生理的変化を説明する。 (2) 対象に行われている看護を見学・体験し、分娩に応じた看護を理解する。 ・ 第１期：ビショップスコア/分娩の３要素/産痛緩和法(呼吸法･マッサージ法)/分娩進行徴候の観察/産婦の日常生活援助、 ・ 第２・３期：分娩に必要な物品準備/分娩補助動作/産婦へのサポート/分娩直後の子宮底触知、 ・ 第４期：母子相互作用を促す支援/家族過程を促す支援/子宮復古状態の観察/胎児付属物の測定/分娩時出血量の測定/諸証明の記載、 (3) 分娩見学を通して分娩経過を踏まえた看護について考察する。 テーマ「分娩期にある人の看護」…Ⓑ 【産褥期】 1）対象の身体的・心理的・社会的特徴と生理的変化を知るための情報収集をし、知識を使い対象の状態を日々アセスメントする。 (1) 対象の退行性変化と進行性変化を観察し、正常な産褥経過かど	 行動報告書 データベース ※分娩の立会は産婦の了承を得て行う。 レポートⒷ 行動報告書 産褥期経過記録

	うか判断する。 (2) ルービンの理論を用いて、褥婦の感情の変化や心理過程を観察し、生活への影響を説明する。 2）対象に行われている看護を体験(見学含む)する。 (1) 対象の生理的変化の観察 ・ 子宮復古状態の観察と援助(分娩直後から退院まで) ・ バイタルサイン測定 ・ 診察と検査介助/悪露交換と排尿看護/初回歩行 ・ 乳房手当/授乳指導/沐浴指導/退院時指導 ・ 母子健康手帳の記載 (2) 観察されたことから、産褥期の回復状態を説明し保健指導を明らかにする。 (3) 母子健康手帳の記載や 2 週間健診を見学し継続看護の必要性について説明する。 テーマ「地域関連機関との連携・継続看護について」…Ⓒ 【新生児期】 1）対象の身体的・心理的・社会的特徴と生理的変化を知るための情報収集をし、知識を使って対象の状態を説明する。 (1) 新生児の身体的特性を説明する。 ・ 生理的体重減少/生理的黄疸 ・ 排泄状況/哺乳状況 (2) 新生児が胎外生活適応過程にあることを理解し、看護の必要性を明らかにする。 2）対象に行われている看護を体験(見学含む)する。 ・ 出生直後の援助/アプガースコア/身体計測/点眼/母子標識、 ・ バイタルサイン測定/ミノルタ/K2 服用/ABR/タンデムマス、 ・ 抱き方と寝かせ方/おむつ交換/沐浴/臍処/更衣/調乳/哺乳、 《実習全体》 1）対象の状況に応じた看護を明らかにする。 (1) 根拠に基づき行動計画を立案する (2) 対象に応じた観察・方法を用いる (3) 対象の状態や申し送り内容から計画を追加修正する (4) 対象の反応や結果を捉え、実施した援助を評価する (5) 実施および見学した内容を、翌日の計画に活かす	産褥期アセスメント用紙 ※褥婦への技術は手順書を作成 レポートⒸ 行動報告書 新生児期経過記録 新生児期アセスメント用紙 ※新生児への技術は手順書を作成
3. 助産師や看護師の対象への関わりを通して、母子を取り巻く環境及び対象への支援となるコミュニケーション技術を学ぶ。	1）対象とコミュニケーションをとる。 (1) 対象の言葉や表情に関心を向ける関わりを持つ (2) 対象と助産師の関わりを通してエモーショナルサポート(自信や勇気を持たせる、気持ちが上向きになる関わり)を知る 2）本実習を通して、生命誕生と自身の母性(父性)について考察する。 テーマ「生命誕生と母性(父性)について」…Ⓓ 3）医療スタッフメンバーとコミュニケーションをとる。 (1) 随時、連絡・報告・相談する (2) 実施する看護の意図や方法を伝え、看護実践の場で協力を得る	レポートⒹ
4. 実習を通して看護学生としての態度を養う。	1）意欲的に学習する。 2）協調性のある行動をとる。 3）礼節をもった対応をする。 4）責任ある行動をとる。	

科目名	単位数	時間数
精神看護学実習	2 単位	90 時間
目的：精神に障害をもつ対象を理解し、対象に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。		

実習目標	実習内容	備考
1．対象をとりまく環境、医療・福祉システムの概要の実際と取り組みについて理解する。	1）病院・病棟オリエンテーションを受けて精神科病棟における特殊な治療環境について理解する。 2）特殊な治療環境が対象に与える影響を理解する。 3）薬物療法、社会復帰療法、生活を整えるための援助など実際に行われている治療・看護の方法を理解する。 下記(1)～(3)の場面での看護援助の見学 (1)　服薬の援助 (2)　社会復帰療法に対する援助 (3)　生活を整えるための援助 (4)　レクリエーション実習 4）病棟オリエンテーション、精神科デイケア実習、多職種オリエンテーション（外来看護師/作業療法士/精神保健福祉士）を受けて病院、デイケア、外来など様々な治療の場とそれぞれの特徴を知り、社会資源の活用について理解する。 5）上記4）を踏まえて、精神保健医療に関わる各専門職の概要とそれぞれの役割を理解する。 6）上記4）を踏まえて、それぞれの場での看護師の活動内容と多職種との協働について理解する。 7）精神看護の現場で生じる倫理的課題について考える。 (1)　倫理の原則に沿って自己の考えをレポートにまとめる。 (2)　倫理的な思考やアサーティブネスを意識し、意見交換する。	行動計画 企画書 レポートⒶ
2．コミュニケーションを通し、対象の生活史・人生史を理解する。	1）対象とのコミュニケーションを実践する。 (1)　対象がこれまで歩んできた人生に関心を持って関わる。 (2)　コミュニケーション技術を意識し、対象の思いやニードに焦点を当てる。 2）上記1）を通して、下記(1)～(3)を意識して所定の用紙に整理する。 (1)　自分が捉えた現象について確認する。 (2)　コミュニケーション・観察・実践（見学）から得た情報を整理する。 (3)　上記の情報からアセスメントする。 ・各クラスターのアセスメントの視点 ・看護の方向性を導く。	プロセスレコード 行動計画 様式：クラスター6,7,8
3．精神に障害のある対象がよりよい生活を送るために必要な看護を提供できる。	1）コミュニケーションや体験を通して得られた情報をアセスメントの概要として所定の用紙に整理し、行われている援助や必要な援助を実践する。 下記を意識して所定の用紙に記録する。 (1)　対象の生活リズム・日課に合わせて計画立案、実施する (2)　実施は原理・原則を踏まえ、対象の反応や結果の事実を把握する (3)　安全・安楽・自立の側面で振り返り実施する	行動計画

	2）実習を振り返って、どのような援助ができたのか考えレポートにまとめる。 レクリエーション実習・倫理カンファレンスでの学び、自己の課題も含む。 テーマ「看護実践の評価と精神看護学実習における学び」	レポートⒷ
4．精神に障害のある対象との援助関係を発展させることができる。	1）対象とのコミュニケーションから一場面を取り上げ、自分の行為の過程を分析する。 2）得られた結果を対象との関わりに活かす。	プロセスレコード
5．実習を通して看護学生としての態度を養う。	1）意欲的な実習姿勢 2）協調性のある実習姿勢 3）礼節のある実習姿勢 4）責任ある実習姿勢	

科目名	単位数	時間数
統合実習	2　単位	90　時間
目的：チームの一員としての自覚を高め、複数患者の受け持ちを通して、知識・技術・態度を統合し看護実践能力を高める。		

実習目標	学習内容	備考
1．看護管理について学び、看護職のもつ知識と技術の有効性を発揮するための仕組みを理解する。	1）看護管理の重要性と病棟の特徴を学ぶ。 ・　看護管理者の役割とその範囲(必要な資格･昇格ルール･スキル)及び倫理的姿勢 ・　安全管理・情報管理・物品管理・業務管理・コスト管理・災害防災管理 ・　看護方式 2）実際の運営やチームナーシングを体験（参加）し、その有効性を理解する。 ・　看護チームの師長及びリーダーとメンバーの役割 ・　リーダーシップ・メンバーシップ ・　看護チーム内での適切な報告・連絡・相談 ・　他職種との協働・連携の必要性 ・　見学や体験を通して、それぞれの役割と必要な基本的能力の考察 3）医療事故防止対策について理解する。 ・　医療事故防止対策 ・　対象の安全を守る感染管理 ・　看護者要因の理解と対策 4）看護専門職としての役割を理解し、自己の課題を明らかにする。 テーマ「シャドーイングから学んだ各業務の役割や特性と医療事故対策について」　・・・Ⓐ	行動計画

	３）複数の対象への看護を理解する。 (1) ゴードンの機能的健康パターンを意識してコミュニケーション技法の活用や援助を通して情報収集する。 (2) 得た情報の意味を解釈し、対象の全体像を捉える。 (3) 情報を説明し援助の必要性を導く。 (4) 対象の状態やニーズに応じた看護を見出す。 中間カンファレンス テーマ「受け持ち対象をどのように捉えたか」 (5) 複数の対象への実践のため業務計画を作成する。 ① リーダーシップ・フォロワーシップの役割と必要な基本的能力を意識して作成する。 ② 援助の必要性、方法・観察・留意点が明確で、根拠に基づいた計画を立てる。 ③ 立案した内容の妥当性を、実施前評価にて明らかにし、適宜追加修正を行う。 ④ 対象に応じた看護実践についてグループ間で共有し、カンファレンスを主体的に運営しリフレクションする。 ⑤ 得た対象の情報や、実施した援助についてのリフレクションを活かし、翌日の業務計画に反映させる。 (6) 看護計画の目標に対して、リフレクションの視点で評価をする。 最終カンファレンス テーマ「対象への看護活動の評価」 「複数の対象を受け持って学んだこと」　・・・Ⓑ	データベース フローシート 中間ＣＦ資料 看護計画 業務計画 経過記録 手順書 レポートⒷ ：最終ＣＦ資料
３．受け持ち対象に合わせた診療の補助技術を安全に体験・実践できる。	１） 安全意識に基づいた診療の補助技術を理解し実践する。 (1) インフォームドコンセントを実施する。 (2) 実践可能か否かの判断をし、看護師へ確認する。 (3) 立案と予習に基づき、安全・安楽に実施する。 ・ 正しい手順 ・ 留意点、工夫点の理解 ・ 正確な機械器具の取り扱い ・ 実施前・中・後の観察 ・ 継続か中断かの判断 (4) 終了後の観察、事実を報告する。 ～体験する診療の補助技術～ ・ 経口与薬（薬物管理、服薬確認、服薬後の観察）経皮・外用薬投与前後の観察 ・ 注射（注射器と注射針の取り扱い、薬液の吸い上げ準備） ・ 点滴静脈内注射の管理 ・ 麻薬管理の実際と麻薬を投与されている患者の観察 ・ 輸血の準備確認、前・中・後の観察 ・ 検査・処置への準備と介助 （検体採取とその取り扱い。但し採血は不可）	※日常生活援助技術は看護師の指導の下、学生主体で実践する。 ※診療の補助技術は可能であれば看護師と共に体験する。